

配信資料に関する技術情報(地震火山編)第 2 1 6 号 緊急地震速報の配信について

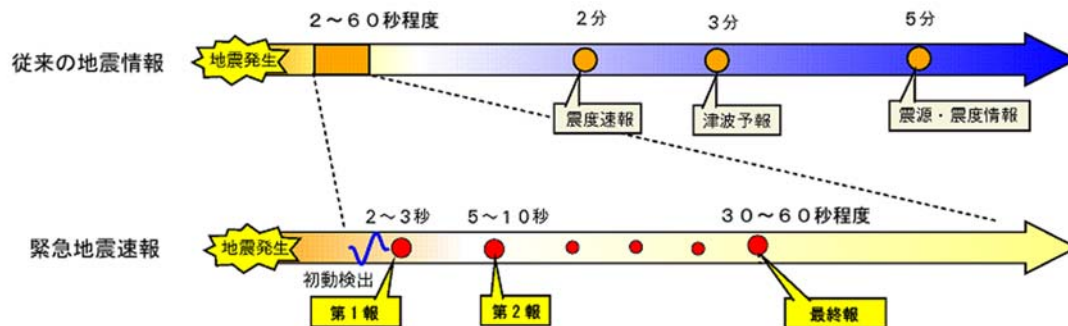
1. 概要

緊急地震速報は地震発生後震源近くで地震波を捉えて、直ちに、以下の内容を利用者に提供する情報であり、この情報を地震による大きな揺れの到達前に活用することで、地震の揺れによる被害を減少させることができると考えています。

＜緊急地震速報で提供する内容＞

- ・ 地震の発生場所（震源）の推定値
- ・ 地震の規模（マグニチュード）の推定値
- ・ 各地への大きな揺れ（主要動）の到達時刻の推定値（主要動到達予測時刻）
- ・ 各地の揺れの大きさ（震度）の推定値（予測震度）

緊急地震速報が従来の地震情報と異なる点はその迅速性です。気象庁は緊急地震速報として下図のように地震を検知してから数秒～1 分程度の間回数(5～10 回程度)の情報を発表します。第 1 報は迅速性を優先し、その後提供する情報の精度は徐々に高くなっていきます。ほぼ精度が安定したと考えられる時点で最終報を発表し、その地震に対する緊急地震速報の提供を終了します。



しかし、緊急地震速報は地震発生から主要動到達までの短い時間に提供・活用する情報であることから、様々な技術的限界があります。

第一に、震源に近い場所ほど情報の提供から主要動が到達するまでの時間が短くなることから、特に内陸の直下型地震などでは、情報の提供が主要動の到達に間に合わないことがあります。

また、緊急地震速報は迅速性を優先しているため、震源及びマグニチュード並びに主要動到達予測時刻及び予測震度の推定精度が十分でない場合があったり、誤報（落雷等、地震以外の原因で発信される緊急地震速報）が発信されることがあります。

緊急地震速報の詳細については別紙に示しますが、利用にあたっての混乱や事故等を防止するためにも、このような特性や限界を十分理解していただくをお願いします。

2. 提供フォーマット

気象庁では緊急地震速報及び関連の情報を下記の電文で提供します。なお、電文のフォーマット等の詳細を別添資料に示します。

電文内容	データ種類コード	識別符(注)
緊急地震速報(コード電文形式)	ナキヤスト 3	00: 通常 20: 参考情報
緊急地震速報(デコード電文形式)	ナキヤスト 4	00: 通常 20: 参考情報
テスト電文(情報の内容は不定)	ナキヤストテスト 1、ナキヤストテスト 91	20: テスト用

コード電文は電文を受信して自動処理をさせることを目的とした機械可読なフォーマットです。これに対してデコード電文は人間が読むための漢字かな混じり文のフォーマットになっています。

テスト電文は通信の疎通確認のために「ナキヤストテスト 1」は1日3回(0時・8時・16時)、「ナキヤストテスト 91」は1日24回(毎正時)、配信します。その他、必要に応じて随時配信を行う場合があります。

注: 「識別符」は別添資料「緊急地震速報の電文フォーマット等」の1ページ目の“nn: 訓練等の識別符”に対応しています。

3. 提供開始時期

平成18年7月頃の配信開始を予定していますが、具体的な時期については、改めてお知らせします。

4. 電文サンプルの提供について

(財)気象業務支援センターにサンプルデータを提供しますので、必要な方は同センターまでお問い合わせ下さい。

5. その他特記事項

緊急地震速報の発表基準や更新条件は別紙のとおりですが、今後、変更する可能性もあります。変更がある場合には、別途、お知らせいたします。

また、気象庁では将来的には緊急地震速報をXML形式で提供することも検討しています。これにつきましては詳細が決まりましたら、改めてお知らせします。

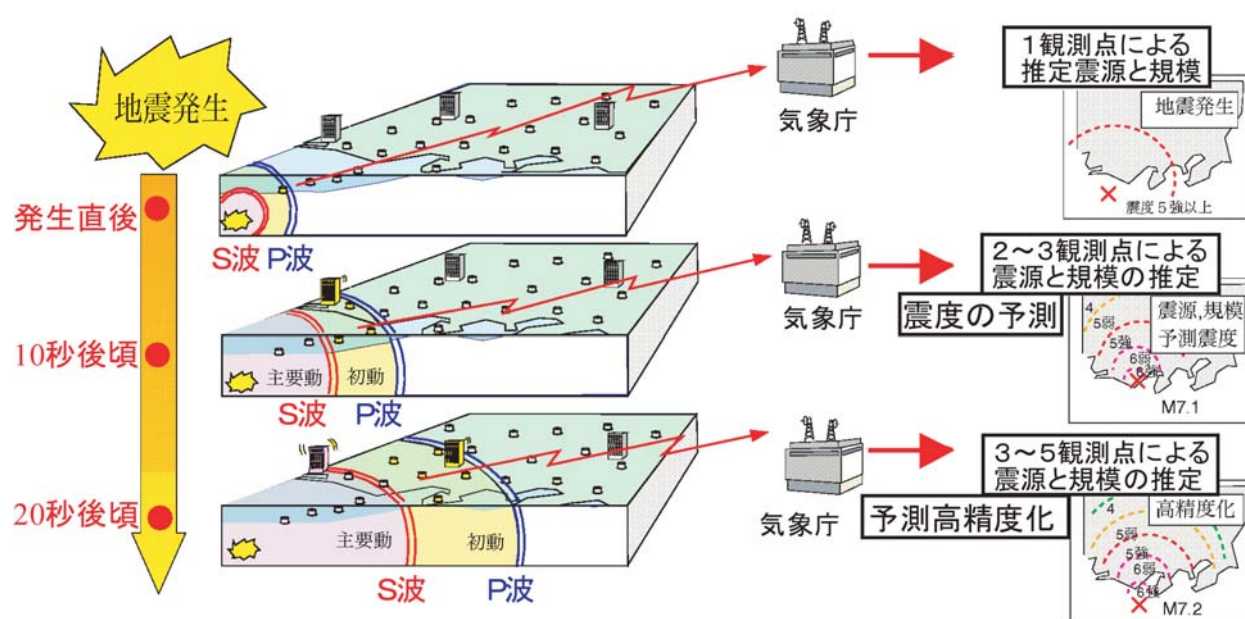
緊急地震速報とは

緊急地震速報は地震発生後震源近くで地震波を捉えて、直ちに、震源及びマグニチュード並びに主要動到達予測時刻及び予測震度を利用者に提供する情報です。

なお、現状における緊急地震速報の特性や限界については、以下のとおりです。

1. 緊急地震速報の原理・情報内容

- (1) 緊急地震速報は、震源に最も近い観測点で地震波を検知し直ちに震源やマグニチュードを推定し、主要動が到達する前に情報を発表して地震災害の防止・軽減に資することを目的とする情報です。
- (2) 緊急地震速報は地震波が各観測点に伝わっている間にそのデータを得て作成される情報であり、地震波がより多くの観測点に伝わるに従って震源やマグニチュードの推定を繰り返します。基本的に時間とともに精度が向上する情報なので、情報の更新のために一回だけでなく複数回の発信を行います。
- (3) 緊急地震速報の内容は、震源及びマグニチュード並びに主要動到達予測時刻及び予測震度などです。
- (4) マグニチュードと地震の断層長との統計的な関係式を用いて、震源を中心とした震源域の拡がり仮定します。これを用いて各地から断層(震源域)までの距離を幅をもって推定し、震源からの距離が遠くなるに従って震度が小さくなるという関係に基づいて各地の震度を推定します。震度に関しては従来の地震情報と異なり、実況値ではなく推定値となりますので場所によっては推定値が必ずしも実況値と一致するとは限らないことについて十分に理解したうえでご利用ください。



2. 緊急地震速報発信の基準、更新の条件

緊急地震速報の発信及び更新条件については以下の通りです。

(1) 緊急地震速報の発信条件

- ア 気象庁の多機能型地震計設置のいずれかの観測点において、P波またはS波の振幅が100ガル以上となった場合。
- イ 解析の結果、震源・マグニチュード・各地の予測震度が求まり、そのマグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合。なお、この基準は変更する場合がある。

※1 マグニチュード6.0未満、かつ最大予測震度が5弱未満の場合には、識別符(別添資料「緊急地震速報の電文フォーマット等」の1ページ目の“nn:訓練等の識別符”)を“20:参考情報”として発表する。

※2 1点の観測点のみの処理結果によって緊急地震速報を発信した後、所定の時間が経過しても2観測点目の処理が行われなかった場合はノイズと判断し、発表から数秒~10数秒程度でキャンセル報を発信する。島嶼部など観測点密度の低い地域では、実際の地震であってもキャンセル報を発信する場合がある。なお、この場合には、キャンセル報の発信までに30秒程度かかることがある。

(2) 緊急地震速報の更新条件

- ア 内陸の地震で、震源、マグニチュードあるいは最大予測震度の変化が以下のいずれかの条件を満たした場合には情報を更新する。
 - (ア) 緯度または経度方向に0.2度以上
 - (イ) 深さ方向に20km以上
 - (ウ) マグニチュードが+0.5以上あるいは-1.0以上
 - (エ) 最大予測震度(計測震度)が+0.5以上あるいは-1.0以上
- イ 海域の地震で、震源、マグニチュードあるいは最大予測震度の変化が以下のいずれかの条件を満たした場合には情報を更新する。
 - (ア) 緯度または経度方向に0.4度以上
 - (イ) 深さ方向に40km以上
 - (ウ) マグニチュードが+0.5以上あるいは-1.0以上
 - (エ) 最大予測震度(計測震度)が+0.5以上あるいは-1.0以上
- ウ 処理に用いた手法や観測点数が変化した場合には情報を更新する。
- エ 推定値の変化が更新報の発信条件に満たない場合でもあっても、システムの動作状況確認などのために定時報を発信する。なお、発信タイミングは緊急地震速報処理開始の10秒後から一定間隔(現在は20秒ごと)である。
- オ 最初の地震波の検出からマグニチュードに応じた時間が経過し、ほぼ精度が安定したと考えられるタイミングで最終報としてその時点での最新の処理結果を発信する。

3. 緊急地震速報の技術的境界

(1) 情報提供から主要動到達までの猶予時間

- ア この情報は地震発生後に震源の近くで捉えた地震波を使って、直ちに震源及びマグニチュード並びに主要動到達時刻及び予測震度を利用者に提供するものですが、震源直上やその周辺では、情報の提供から主要動到達までの時間が短く、情報の提供が主要動の到達に間に合わないことがあります。

(2) 規模・震度の推定、深発地震対応

- ア 緊急地震速報では迅速な情報提供を行うために限られたデータで震源等を推定し

ます。このため地震観測網から遠く離れた場所(100km程度以遠)で起こった地震に関しては誤差が大きくなる可能性があります。

イ マグニチュード7程度までの地震では比較的早くマグニチュードを求めることが可能ですが、それよりも大規模な地震では正確なマグニチュードを短時間で推定することは困難であり、震度が小さく推定される場合があります。マグニチュード8以上の巨大地震では、地震断層面におけるずれ破壊の開始から終了まで数十秒あるいは1分以上要する場合もあり、震源域の拡がりやマグニチュードを短時間で、推定することは技術的に難しくなります。

また、震度の推定においては断層長の影響についてもある程度は考慮しますが、巨大地震になるとアスペリティ（断層面上の強度の大きい部分で、大きな揺れを励起する場所）等の影響が大きくなり、地震による揺れの分布は、震源域からの距離だけでは決まりません。断層からもっとも多くのエネルギーが放出される場所が震源と大きく離れている場合には正確な震度分布の推定も困難になります。

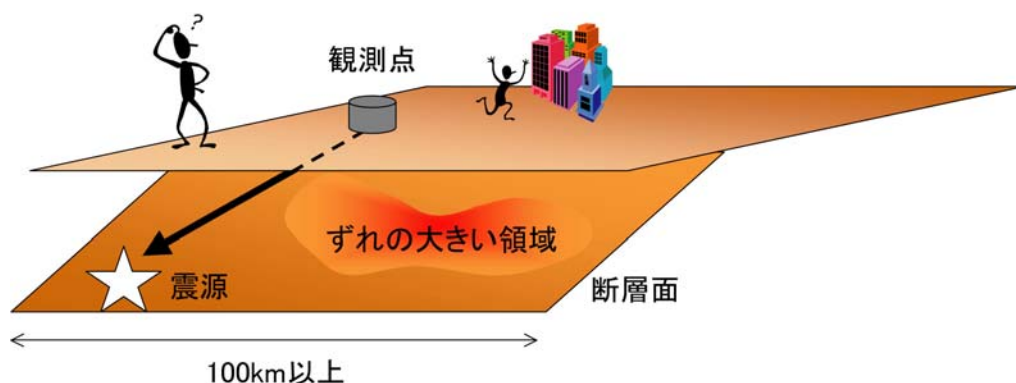


図 1: 大きな地震では正確な震度の推定が難しくなります

ウ 深発地震(深さ 100km 程度より深い場所で発生する地震)では沈み込むプレートに沿って地震波が伝わりやすいという性質が顕著に現れるので、震源の直上より震源から離れた場所で揺れが大きくなる場合があります(異常震域)。また、現在、震度の推定に用いている経験式を深発地震に適用すると、実際よりも大きく計算されます。このため深発地震では正確な震度の推定は困難です。ただし、深発地震で被害が発生することは稀です。

また、緊急地震速報の1あるいは2観測点を使った段階の震源の推定では深発地震であっても震源の深さを10kmに仮定して緊急地震速報を発表しますので、この場合も震度の推定に大きな誤差が発生することがあります。

なお、深発地震と推定された場合には、推定精度が十分でない震度を提供することによる混乱を防止するため、当面、最大予測震度(別添資料「緊急地震速報および関連情報の電文フォーマット」の2ページ目の“ss”)を“//:不明”として発表します。

(3) 複数同時地震への対応

ア 複数の地震が時間的・距離的に近接して発生した場合には地震の適切な分離ができず、的確な情報の発信ができない場合があります。

このような場合大きな誤差を生じる可能性があります



図 2: 技術的に誤差が大きくなりやすい事例があります

(4) 誤報

ア 緊急地震速報は様々な手法を用いてノイズの除去を行っていますが、1観測点のみのデータを使っている段階の情報では、除去しきれないノイズのために地震が発生したと誤って認識して情報を発信する可能性があります。なお、ある観測点で地震を検知して緊急地震速報を発表した場合で、引き続き他の観測点で地震が検知されないときには数秒～10数秒程度でキャンセル報を発信します。ただし島嶼部等の観測点密度の低い地域で地震が発生した場合はキャンセル報の発信までに30秒程度かかる場合もあります。

このような場合誤った情報を発信する可能性があります



地震計への何らかの強い振動入力や機器故障により誤情報を発表する可能性があります。この場合10数秒後にキャンセル報を発信します。

図 3: 誤った情報を発表する可能性があります

(5) 障害・メンテナンス

ア 障害や保守の実施等でその観測点が利用できなくなることにより、情報の発表が遅れたり情報の精度が悪くなる場合があります。

緊急地震速報には以上のような特性や限界があります。このため情報の利用や配信・再配信等にあたっては、すべての利用者に緊急地震速報の特性や限界を十分理解していただき、混乱や事故等の発生を防止し適切な対応を取るようお願いします。

緊急地震速報および関連情報の電文フォーマット

目 次

1	緊急地震速報（コード電文形式）の電文フォーマット	1	～	6
			
2	緊急地震速報（コード電文形式）の電文例	7	～	11
			
3	緊急地震速報（デコード電文形式）の電文例	12	～	17
			
4	その他の緊急地震速報関連電文の電文例	18		
			
5	コード表			
	(1) 震央地名コード表	19	～	22
	(2) 地域名コード表	23	～	24

緊急地震速報（コード電文形式）の電文フォーマット

緊急地震速報コード電文フォーマット

aa bb nn y₁y₂m₁m₂d₁d₂h₁h₂m₃m₄s₁s₂ Cnf
y₀y₀m₀m₀d₀d₀h₀h₀m₀m₀s₀s₀
NDnnnnnnnnnnnnnnn NCNann JDnnnnnnnnnnnnnnn JNnnn
kkk nddd edddd hhh mm ss RKn₁n₂n₃n₄n₅ RTn₁n₂n₃n₄n₅ RCn₁n₂n₃n₄n₅
EBI [{fff Se₁e₂e₃e₄ hhmmss y₁y₂}...] }
{ECI [{ffffff Se₁e₂e₃e₄ hhmmss y₁y₂}...] }
{EII [{fffffff Se₁e₂e₃e₄ hhmmss y₁y₂}...] }
9999=

(1) 基本コード部

aa : 電文種別コード

35 : 最大予測震度のみの緊急地震速報（発表パターン1:後述）

36 : マグニチュード（以下、「M」と記述。）、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の
緊急地震速報（発表パターン2:後述）

37 : M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報（発表パターン3:後述）

39 : キャンセル（取り消し）情報

bb : 発信官署

01 : 札幌、02 : 仙台、03 : 東京、04 : 大阪、05 : 福岡、06 : 沖縄

nn : 訓練等の識別符

00 : 通常、 01 : 訓練 20 : 参考情報またはテスト

10 : 取り消し 11 : 訓練取り消し 30 : コード部のみの配信試験

y₁y₂m₁m₂d₁d₂h₁h₂m₃m₄s₁s₂ : 電文の発表時刻(年 ; 2桁、月、日、時、分、秒)

Cnf : 電文の通数

C : 指示符

n : 電文がこの電文を含め何通あるか。

f : コードが続くかどうか（1 : 終わり、0 : 続く）

注) 従前の地震情報と同じ

9999 : 終了符号

= : 末尾記号（半角）

(2) 緊急地震速報コード部

y_oy_om_om_od_od_oh_oh_om_om_os_os_o : 地震検知時刻(年、月、日、時、分、秒)

NDnnnnnnnnnnnnnnnn : 緊急地震速報発表対象地震識別番号 (緊急地震速報用地震 I D)

ND : 指示符

nnnnnnnnnnnnnnnn : 地震識別番号 (yyyyymmddhhmmss : 西暦、月、日、時、分、秒)

////////// (未設定時)

NCNann : 緊急地震速報番号

NCN : 指示符

ann :

a : 発表状況 (訂正等) の指示

0 : 通常発表時

6 : 情報内容を訂正する。

7 : キャンセルを誤って発表した場合の訂正である。

8 : 訂正事項を盛り込んだ最終の緊急地震速報である。

9 : 最終の緊急地震速報である。

/ : 未設定時

mn : 発表する緊急地震速報の番号 (地震単位での通番)

01~99 : 情報番号

// : 未設定時

JDnnnnnnnnnnnnnnnn : (気象庁の部内システムでの利用)

JNnnn : (気象庁の部内システムでの利用)

kkk : 震央地名コード (資料末尾の“震央地名コード表”参照)

(/// : キャンセル時)

Nddd Edddd : 震源の緯度経度 (単位 1/10 度)

N : N 北緯、S 南緯

E : E 東経、W 西経

(//// // : キャンセル時)

※電文種別番号 (基本コード部 “aa”) が “35” の場合は、100 ガルを超える加速度 (=非常に強い揺れ) が検知された観測点の緯度経度を表す。

hhh : 震源の深さ (単位 km)

(/// : 不明・未設定時、キャンセル時)

mm : マグニチュード

(// : 不明・未設定時、キャンセル時)

※電文種別番号 (基本コード部 “aa”) が “35” の場合は、“//” とする。

ss : 最大予測震度 (// : 不明・未設定時、キャンセル時)

階級震度とするが、震度 5、6 (強弱) 以外は、上位ゼロ詰めとする。

震度： 1 2 3 4 5- 5+ 6- 6+ 7

表記：01 02 03 04 5- 5+ 6- 6+ 07

※電文種別番号（基本コード部“aa”）が“35”の場合は、“5-”に固定する。

RKn₁n₂n₃n₄n₅：データの確からしさ

RK：指示符

n₁：震央の確からしさ

- 1...：P波/S波レベル越え、またはテリトリー法（1点） [気象庁データ]
- 2...：テリトリー法（2点） [気象庁データ]
- 3...：グリッドサーチ法（3点/4点） [気象庁データ]
- 4...：グリッドサーチ法（5点） [気象庁データ]
- 5...：防災科研システム（4点以下、または精度情報なし）
[防災科学技術研究所データ[以下、防災科研データ]]
- 6...：防災科研システム（5点以上） [防災科研データ]
- 7...：EPOS（海域 [観測網外]） [気象庁データ]
- 8...：EPOS（内陸 [観測網内]） [気象庁データ]
- 9...：予備
- /...：不明、未設定時、キャンセル時

n₂：震源の深さの確からしさ

- 1...：P波/S波レベル越え、またはテリトリー法（1点） [気象庁データ]
- 2...：テリトリー法（2点） [気象庁データ]
- 3...：グリッドサーチ法（3点/4点） [気象庁データ]
- 4...：グリッドサーチ法（5点） [気象庁データ]
- 5...：防災科研システム（4点以下、または精度情報なし）
[防災科学技術研究所データ[以下、防災科研データ]]
- 6...：防災科研システム（5点以上） [防災科研データ]
- 7...：EPOS（海域 [観測網外]） [気象庁データ]
- 8...：EPOS（内陸 [観測網内]） [気象庁データ]
- 9...：予備
- /：不明、未設定時、キャンセル時

n₃：マグニチュードの確からしさ

- 1...：未定義
- 2...：防災科研システム [防災科研データ]
- 3...：全点（最大5点）P相 [気象庁データ]
- 4...：P相/全相混在 [気象庁データ]
- 5...：全点（最大5点）全相 [気象庁データ]
- 6...：EPOS [気象庁データ]
- 7...：未定義
- 8...：P波/S波レベル越え [気象庁データ]
- 9...：予備
- /：不明、未設定時、キャンセル時

n₄：震央の確からしさ（※気象庁の部内システムでの利用）

- 1...：P波/S波レベル越え、またはテリトリー法（1点） [気象庁データ]
- 2...：テリトリー法（2点） [気象庁データ]
- 3...：グリッドサーチ法（3点/4点） [気象庁データ]
- 4...：グリッドサーチ法（5点） [気象庁データ]

5～9：未使用

/…：不明、未設定時、キャンセル時

n₅：震源の深さの確からしさ（※気象庁の部内システムでの利用）

1…：P波/S波レベル越え、またはテリトリー法（1点）〔気象庁データ〕

2…：テリトリー法（2点）〔気象庁データ〕

3…：グリッドサーチ法（3点/4点）〔気象庁データ〕

4…：グリッドサーチ法（5点）〔気象庁データ〕

5～9：未使用

/…：不明、未設定時、キャンセル時

※RKn₁n₂n₃n₄n₅の補足

①処理手法の説明

- ・P波/S波レベル越え：観測点において100ガルを超える加速度（＝非常に強い揺れ）が検知された場合に、震源位置やマグニチュードの推定を行わずに、この観測点の直下で地震が発生したと仮定する方法であり、深さは10kmに固定する。
- ・テリトリー法：1～2つの観測点のデータが得られているときに、観測点の配置状況をもとに、これら以外の観測点には地震波が到達していないということを利用して、おおよその震央位置を推定する方法であり、深さは10kmに固定する。
- ・グリッドサーチ法：3～5つの観測点のデータが得られているときに、それぞれの観測点における実際の地震波到達時刻と、観測点の位置情報から得られた理論上の地震波到達時刻を比較し、この差が最小となるように震源の位置を推定する方法である（震源に近い観測点のデータに重みをつけている）。なお、複数の観測点での地震波検知時刻がほぼ同じになった場合は浅い場所で発生した地震を離れたところでの深発地震と判断してしまう可能性があるため、3、4点のデータを用いた処理において、震源の深さが深く推定された場合には、当面、情報を発信しない。
- ・防災科研システム：震源決定においては（独）防災科学技術研究所において開発されたグリッドサーチ法の一つを用い、気象庁が整備した多機能型地震計のデータではなく、防災科学技術研究所のHi-net観測網のデータを用いて処理を行っている。また、マグニチュードに関してもHi-net観測網のデータから求めている。
- ・EPOS：従来の震源決定手法で、複数の地震観測点で得られた観測データ（P波及びS波到達時刻と最大振幅）を基に地震活動等総合監視システム（EPOS）で自動処理計算したものである。なお、現在、気象庁が発表する「津波予報」や「地震情報（震源・震度に関する情報など）」は、このシステムで得られるデータを用いている。
- ・全点P相：全ての観測点においてP波（P相）の振幅を用いたマグニチュードの計算が行われており、この結果を基にマグニチュードを推定している。
- ・P相/全相混在：P波（P相）の振幅を用いたマグニチュードの計算を行っている観測点と、S波以降（全相）の振幅を用いたマグニチュードの計算を行っている観測点が混在しており、この結果を基にマグニチュードを推定している。
- ・全点全相：全ての観測点においてS波以降（全相）の振幅を用いたマグニチュード

の計算を行っており、この結果を基にマグニチュードを推定している。

②RKn₄n₅について

- ・気象庁の部内システムで使用するフラグであり、“1”～“4”のみを使用する。
- ・フラグに対応する手法等は、n₁とn₄、n₂とn₅で同一である。
- ・気象庁の部内システムで使用するフラグであるため、事前の予告なしに変更する場合がある。

RTn₁n₂n₃n₄n₅ : 地震の発生場所

RT : 指示符

n₁ : 震央位置の海陸判定

0 : 陸域

1 : 海域

2~9 : 未定義

/ : 不明、未設定時、キャンセル時

n₂ ~ n₅ : 予備

/ : キャンセル時

RCn₁n₂n₃n₄n₅ : 最大予測震度の変化

RC : 指示符

n₁ : 最大予測震度の変化

0 : ほとんど変化なし

1 : 最大予測震度が1.0以上大きくなった。

2 : 最大予測震度が1.0以上小さくなった。

3~9 : 未定義

/ : 不明、未設定時、キャンセル時

n₂ : 最大予測震度の変化の理由

0 : 変化なし

1 : 主としてMが変化したため(1.0以上)。

2 : 主として震源位置が変化したため(10.0km以上)。

3 : M及び震源位置が変化したため(1と2の複合条件)。

4 : 震源の深さが変化したため(上記のいずれにもあてはまらず、30.0km以上の変化)。

5~9 : 未定義

/ : 不明、未設定時、キャンセル時

n₃ ~ n₅ : 予備

/ : キャンセル時

EBI [{fff Se₁e₂e₃e₄ hhmss y₁y₂} …] : 最大予測震度と主要動到達予測時刻 (地域単位)

(キャンセル時、発表パターン1または最大予測震度を発表しない場合は指示符以下省略)

EBI : 推定結果を地域単位で表すことの指示符

fff : 地域コード (資料末尾の“地域コード表”参照)

Se₁e₂e₃e₄ : 最大予測震度 (階級震度)

S : 指示符

e₁e₂e₃e₄ で発表する最大予測震度の幅を表現する。

①最大予測震度に幅を持たさない場合

「震度 e₁e₂ 程度以上」

注) e₃e₄ = “//”

②最大予測震度に幅を持たせる場合

「震度 e_3e_4 から e_1e_2 程度」 注) $e_3e_4 < e_1e_2$

「震度 e_3e_4 から e_1e_2 程度」 注) $e_3e_4 < e_1e_2$

※ e_1e_2 と e_3e_4 の表記

階級震度とするが、震度 5、6 (強弱) 以外は、上位ゼロ詰めとする。

震度： 1 2 3 4 5- 5+ 6- 6+ 7

表記： 01 02 03 04 5- 5+ 6- 6+ 07

hhmmss : 主要動到達予測時刻
///// : 不明または未設定時

y_1y_2 : 主要動の到達予測状況
00 : 未到達
01 : 既に到達と予測
02~99 : 未定義
// : 不明または未設定時

ECI [{ffffff Se₁e₂e₃e₄ hhmmss y₁y₂}]… : 推定した最大震度と主要動到達予測時刻 (市町村単位)
(キャンセル時、発表パターン 1 または推定した最大震度を発表しない場合は指示符以下省略)

ECI : 推定結果を市町村単位で表すことの指示符

ffffff : 市町村コード

EII [{fffffff Se₁e₂e₃e₄ hhmmss y₁y₂}]… : 推定した最大震度と主要動到達予測時刻 (観測点単位)
(キャンセル時、発表パターン 1 または推定した最大震度を発表しない場合は指示符以下省略)

EII : 推定結果を観測点単位で表すことの指示符

fffffff : 地点コード

※1 “EBI (ECI、EII)” については、最大予測震度が 5 弱以上となった地域のみ表現する。

※2 当面は、“EBI” のみを提供し、“ECI” 及び “EII” については提供しない。

緊急地震速報（コード電文形式）の電文例

コード電文例

（１）発表パターン１（最大予測震度のみの緊急地震速報）

ナウキャスト 3 キョウ

35 03 00 020117093014 C11

020117093010

ND20020117093012 NCN001 JD////////// JN//

016 N343 E1384 010 // 5- RK118// RT00000 RC/////

9999=

35 : 最大予測震度のみの緊急地震速報
03 : 本庁
00 : 通常
020117093014 : 発表時刻 2002年01月17日09時30分14秒
C11 : 全電文1通のうち最後
020117093010 : トリガ時刻 2002年01月17日09時30分10秒
ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震ID
NCN001 : 緊急地震速報番号 (0) 01番 → (0) : 通常
JD////////// : (部内利用)
JN// : (部内利用)
016 : 震央地名番号 東海地方
N343 : 北緯 34.3度
E1384 : 東経 138.4度
010 : 深さ 10km
// : マグニチュード 不明
5- : 最大予測震度 “5-” に固定
RK118// : 震源精度=P波/S波レベル越え(1)、M精度=P波/S波レベル越え(8)
RT00000 : 地震の発生場所 n₁=0 : 陸域
RC///// : 最大予測震度の変化(未設定)

（２）発表パターン２（M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報）

ナウキャスト 3 キョウ

36 03 00 020117093016 C11

020117093010

ND20020117093012 NCN002 JD20020117093012 JN001

486 N343 E1384 010 55 5- RK334// RT00000 RC00000

EBI 440 S6-// 093022 00 442 S6-// 093022 00 443 S6-// 093030 00 441 S6-// 093036 00

9999=

36 : M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報
03 : 本庁
00 : 通常
020117093016 : 発表時刻 2002年01月17日09時30分16秒
C11 : 全電文1通のうち最後

020117093010 : 地震時刻 2002年01月17日09時30分10秒
 ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震ID
 NCN002 : 緊急地震速報番号 (0) 02番 → (0) : 通常
 JD20020117093012 : (部内利用)
 JN001 : (部内利用)
 486 : 震央地名番号 駿河湾南方沖
 N343 : 北緯 34.3度
 E1384 : 東経 138.4度
 010 : 深さ 10km
 55 : マグニチュード 5.5
 5- : 最大予測震度 5弱程度以上
 RK334// : 震源精度=3点若しくは4点グリッドサーチ(3)、M精度=P相計算式と全相計算式が混在(4)
 RT00000 : 地震の発生場所 n₁=0 : 陸域
 RC00000 : n₁=0 : ほとんど変化なし n₂=0 : 変化なし
 EBI 442 S6-// 093022 00 : 静岡県中部(地域番号442)で震度6弱以上と推定(S6-//)
 主要動到達予測時刻は09時30分22秒頃以降(093022) 未到達(00)
 (以下同様)

(3) 発表パターン3 (M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報)

ナウキャスト3 キョウ

37 03 00 020117093020 C11

020117093010

ND20020117093010 NCN003 JD20020117093010 JN002

486 N343 E1384 010 75 6- RK665// RT00000 RC11000

EBI

442 S6-5- 093022 00 440 S6-04 093022 00 443 S6-04 093030 00 441 S0503 093036 00
9999=

37 : M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報 (確度大)

03 : 本庁

00 : 通常

020117093020 : 発表時刻 2002年01月17日09時30分20秒

C11 : 全電文1通のうち最後

020117093010 : 地震時刻 2002年01月17日09時30分10秒

ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震ID

NCN003 : 緊急地震速報番号 (0) 03番 → (0) : 通常

JD20020117093012 : (部内利用)

JN002 : (部内利用)

486 : 震央地名番号 駿河湾南方沖

N343 : 北緯 34.3度

E1384 : 東経 138.4度

010 : 深さ 10km

75 : マグニチュード 7.5

6- : 最大予測震度 6弱程度以上

RK665// : 震源精度=防災科研システム5点以上(6)、M精度=全点全相(5)

RT00000 : 地震の発生場所 $n_1=0$: 陸域
RC11000 : $n_1=1$: 最大予測震度が大きくなった $n_2=1$: 主としてMが大きくなったため
EBI 442 S6-5- 093022 00 : 静岡県中部 (地域番号 442) で震度 5 弱から 6 弱程度と推定(S6-5-)
主要動到達予測時刻は 09 時 30 分 22 秒頃以降(093022) 未到達(00)
(以下同様)

(4) 緊急地震速報の訂正情報

ナウキャスト 3 キョウ

37 03 00 020117093020 C11
020117093010
ND20020117093012 NCN803 JD20020117093012 JN002
486 N343 E1384 010 75 6- RK665// RT00000 RC12000
EBI 442 S6-5- 093022 00 440 S6-04 093022 00 443 S6-04 093030 00 441 S0503 093036 00
9999=

37 : M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報
03 : 本庁
00 : 通常
020117093020 : 発表時刻 2002 年 01 月 17 日 09 時 30 分 20 秒
C11 : 全電文 1 通のうち最後
020117093010 : 地震時刻 2002 年 01 月 17 日 09 時 30 分 10 秒
ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震 ID
NCN803 : 緊急地震速報番号 (8) 03 番 → (8) : 訂正(共通)
JD200107093012 : (部内利用)
JN002 : (部内利用)
486 : 震央地名番号 駿河湾南方沖
N343 : 北緯 34.3 度
E1384 : 東経 138.4 度
010 : 深さ 10 k m
75 : マグニチュード 7.5
04 : 最大予測震度 6 弱程度以上
RK665// : 震源精度=防災科研システム 5 点以上 (6)、M 精度=全点全相 (5)
RT00000 : 地震の発生場所 $n_1=0$: 陸域
RC12000 : $n_1=1$: 最大予測震度が大きくなった $n_2=2$: 主として震源位置が変化したため
EBI 442 S6-5- 093022 00 : 静岡県中部 (地域番号 442) で震度 5 弱から 6 弱程度と推定(S6-5-)
主要動到達予測時刻は 09 時 30 分 22 秒頃以降(093022) 未到達(00)
(以下同様)

(5) 緊急地震速報の最終情報

ナウキャスト 3 キョウ

37 03 00 020117093511 C11
020117093010
ND2002017093012 NCN904 JD20020117093012 JN002
486 N343 E1384 010 75 6- RK665// RT00000 RC00000
EBI 442 S6-5- 093022 01 440 S6-04 093022 01 443 S6-04 093030 01 441 S0503 093036 01
9999=

37 : M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報
 03 : 本庁
 00 : 通常
 020117093511 : 発表時刻 2002年01月17日09時35分11秒
 C11 : 全電文1通のうち最後
 020117093010 : 地震時刻 2002年01月17日09時30分10秒
 ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震ID
 NCN904 : 緊急地震速報番号 (9) 04番 → (9) : 終了(共通)
 JD20020117093012 : (部内利用)
 JN002 : (部内利用)
 486 : 震央地名番号 駿河湾南方沖
 N343 : 北緯 34.3度
 E1384 : 東経 138.4度
 010 : 深さ 10km
 75 : マグニチュード 7.5
 04 : 最大予測震度 6弱程度以上
 RK665// : 震源精度=防災科研システム5点以上(6)、M精度=全点全相(5)
 RT00000 : 地震の発生場所 $n_1=0$: 陸域
 RC00000 : $n_1=0$: ほとんど変化なし $n_2=0$: 変化なし
 EBI 442 S6-5- 093022 01 : 静岡県中部(地域番号442)で震度5弱から6弱程度と推定(S6-5-)
 主要動到達予測時刻は09時30分22秒頃以降(093022)
 すでに到達と予測(01)

(以下同様)

(6) キャンセル(取り消し)情報(共通)

ナウキャスト3 キンヨウ

39 03 10 020117093511 C11 020117093010
 ND20020117093012 NCN006 JD20020117093012 JN///
 /// N/// E//// /// // // RK///// RT///// RC/////

9999=

39: キャンセル(取り消し)情報(共通)

03 : 本庁
 10: 訓練等の識別符=取り消し
 020117093511 : 発表時刻 2002年01月17日09時35分11秒
 C11 : 全電文1通のうち最後
 020117093010 : 地震時刻 2002年01月17日09時30分10秒
 ND20020117093012 : 緊急地震速報用・地震ID
 NCN006 : 緊急地震速報番号 (0) 06番 → (0) : 通常
 JD20020117093012 : (部内利用)
 JN002 : (部内利用)
 /// : 震央地名番号 キャンセル
 N/// : 緯度 キャンセル
 E/// : 経度 キャンセル
 /// : 深さ キャンセル
 // : マグニチュード キャンセル

// : 最大予測震度 キャンセル
RK///// : 震源精度 キャンセル、M精度キャンセル
RT///// : 地震の発生場所 $n_1 = /$ キャンセル
RC///// : キャンセル

緊急地震速報（デコード電文形式）の電文例

（１）発表パターン１（最大予測震度のみの緊急地震速報）

ナキヤスト４ キヨウ

35 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分14秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報（第1報）

17日09時30分10秒頃

静岡市付近 最大震度5弱程度以上と推定

=

※電文種別番号（基本コード部“aa”）が“35”の場合は、100ガルを超える加速度（＝非常に強い揺れ）が検知された観測点が設置されている市町村名を発表する。

（２）発表パターン２（M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報）

1) 主要動が未到達と予測された場合の例

ナキヤスト４ キヨウ

36 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分16秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報（第2報）

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M5.5程度以上の地震発生

<主要動の到達予測>

静岡県中部 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県伊豆 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県西部 震度6弱程度以上 09時30分30秒頃以降

静岡県東部 震度6弱程度以上 09時30分36秒頃以降

=

2) 主要動が既に到達と予測された場合の例

ナウキャスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分36秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報 (第2報)

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M5.5程度以上の地震発生

<主要動の到達予測>

愛知県西部 震度5弱程度以上 09時30分37秒頃以降

<主要動が既に到達したと思われる地域>

震度6弱程度以上 静岡県東部、静岡県中部、静岡県西部、静岡県伊豆

=

(3) 発表パターン3 (M、最大予測震度及び主要動到達予測時刻の緊急地震速報)

1) 主要動が未到達と予測された場合の例

ナウキャスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分20秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報 (第3報)

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動の到達予測>

静岡県中部 震度5弱から6弱程度 09時30分22秒頃以降

静岡県伊豆 震度4 から6弱程度 09時30分22秒頃以降

静岡県西部 震度4 から6弱程度 09時30分30秒頃以降

静岡県東部 震度3 から5強程度 09時30分36秒頃以降

=

2) 主要動が既に到達と予測された場合の例

ナウキャスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分36秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報 (第3報)

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動の到達予測>

愛知県西部 震度3 から5弱程度 09時30分37秒頃以降

<主要動が既に到達したと思われる地域>

静岡県中部 震度5弱から6弱程度

静岡県伊豆 震度4 から6弱程度

静岡県西部 震度4 から6弱程度

静岡県東部 震度3 から5強程度

=

(4) 最大予測震度に変化があった場合の情報(パターン2、3共通)

1) 最大予測震度が大きくなった場合の例

ナウキャスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分20秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報 (第4報)

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

震源位置が変わり、推定される最大震度が大きくなりました。

<主要動の到達予測>

静岡県中部 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県伊豆 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県西部 震度6弱程度以上 09時30分30秒頃以降
静岡県東部 震度6弱程度以上 09時30分36秒頃以降
=

注) 最大予測震度が大きくなった主な原因を盛り込む(震源位置の変化、Mの変化、両方の変化等)

2) 推定した最大震度が小さくなった場合の例

ナカヤスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分20秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報(第5報)

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動の到達予測>

静岡県中部 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県伊豆 震度6弱程度以上 09時30分22秒頃以降

静岡県西部 震度6弱程度以上 09時30分30秒頃以降

静岡県東部 震度6弱程度以上 09時30分36秒頃以降
=

注) 最大予測震度が小さくなったことについては、その原因を含め特に情報に盛り込まない。

(5) 緊急地震速報の最終情報

1) 通常時

ナカヤスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時35分11秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報(第6報:最終)

この情報をもって

地震ID:20020117093012の緊急地震速報の

終了とします。

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度
北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動が既に到達したと思われる地域>

静岡県中部 震度5弱から6弱程度
静岡県伊豆 震度4 から6弱程度
静岡県西部 震度4 から6弱程度
静岡県東部 震度3 から5強程度
愛知県西部 震度3 から5弱程度

=

2) 当初発表した最大予測震度より小さくなった場合

ナウキャスト4 キヨウ

37 03 00 0201170930 C11 9999

地震ID : 20020117093012

平成15年 1月17日09時30分36秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報 (第6報:最終)

この情報をもって

地震ID: 20020117093012の緊急地震速報の

終了とします。

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M5.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動が既に到達したと思われる地域>

静岡県東部 震度3 から4程度
愛知県西部 震度3 から4程度

予測した最大震度が小さくなりました。

=

(6) キャンセル (取り消し) 情報

最後に発表した情報を取り消す例

ナウキャスト4 キヨウ

39 03 00 0201170935 C11 9999

平成15年 1月17日09時35分11秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報

地震ID：20020117093012の緊急地震速報は
取り消します。

=

※ 新たな情報が常に更新されたものと位置づけることから、途中の情報の訂正等も反映していることになる
ので、最後に発表した最新の情報を取り消すことで全ての情報を取り消すことになる。
なお、情報番号は付かない。

(7) 訂正情報

直前の情報内容を念のため訂正とする例

ナウキャスト4 キョウ

37 03 00 0201170935 C11 9999

地震ID：20020117093012

平成15年 1月17日09時35分11秒

気象庁地震火山部発表

緊急地震速報（第7報）

先ほど発表した

地震ID：20020117093012の緊急地震速報を
次のとおり、訂正します。

17日09時30分10秒頃

駿河湾南方沖 M7.5程度

北緯34.3度 東経138.4度 深さ10km

<主要動が既に到達したと思われる地域>

静岡県東部 震度3 から5強程度

愛知県西部 震度3 から5弱程度

=

※ 基本的には情報の更新と考えるが、念のため訂正情報を準備している。
なお、情報番号は1つ繰り上がる。

その他の緊急地震速報関連電文の電文例

1 テスト電文

(1) 概要

受信ユーザ側のシステム動作確認のために、定時または臨時に発信するテスト電文である。

なお、定時発信について、「ナキヤストテスト 1」は 1 日 3 回(08 時、16 時、24 時)、「ナキヤストテスト 91」は 1 日 24 回(毎正時)発信する。

また、下記の“電文内容”及び“電文例”は定時配信の例であり、臨時に配信する場合の内容は不定である。

(2) 電文内容(定時配信の例)

- ① データ種類コード=ナキヤストテスト 1 またはナキヤストテスト 91
- ② 電文形態=コード+かな漢字
- ③ コード部=基本コード部のみ。

{aa bb nn y₁y₂m₁m₂d₁d₂h₁h₂m₁m₂s₁s₂ Cnf 9999}

aa : 電文種別コード =38 : テスト電文用 (データ種類コード=ナキヤストテスト 1 及びナキヤストテスト 91 の場合に限る)

bb : 発信官署 =03 : 東京

nn : 訓練等の識別符 =20 : テスト

y₁y₂m₁m₂d₁d₂h₁h₂m₁m₂s₁s₂ = 電文の発表時刻(年 ; 2 桁、月、日、時、分、秒)

Cnf : 電文の通数 (注) 従前の地震情報と同じ

9999 : 終了符号

= : 末尾記号 (半角)

(3) 電文例(定時配信の例)

ナキヤストテスト 1 キヨヨ

38 03 20 030313080000 C11 9999

緊急地震速報のテスト電文です。
2003年03月13日08時00分00秒
気象庁地震火山部=

震央地名コード表（2006年2月1日現在）

震央地名コード	震央地名	震央地名コード	震央地名
011	北海道地方	167	根室支庁南部
012	東北地方	180	北海道南西沖
013	北陸地方	181	北海道西方沖
014	関東甲信地方	182	石狩湾
015	小笠原地方	183	北海道北西沖
016	東海地方	184	宗谷海峡
017	近畿地方	185	北海道北東沖
018	中国地方	186	国後島付近
019	四国地方	187	択捉島付近
020	九州地方	188	北海道東方沖
021	沖縄地方	189	根室半島南東沖
100	石狩支庁北部	190	釧路沖
101	石狩支庁中部	191	十勝沖
102	石狩支庁南部	192	浦河沖
105	渡島支庁北部	193	苫小牧沖
106	渡島支庁東部	194	内浦湾
107	渡島支庁西部	200	青森県津軽北部
110	桧山支庁地方	201	青森県津軽南部
115	後志支庁北部	202	青森県三八上北地方
116	後志支庁東部	203	青森県下北地方
117	後志支庁西部	210	岩手県沿岸北部
120	空知支庁北部	211	岩手県沿岸南部
121	空知支庁中部	212	岩手県内陸北部
122	空知支庁南部	213	岩手県内陸南部
125	上川支庁北部	220	宮城県北部
126	上川支庁中部	221	宮城県南部
127	上川支庁南部	230	秋田県沿岸北部
130	留萌支庁中北部	231	秋田県沿岸南部
131	留萌支庁南部	232	秋田県内陸北部
135	宗谷支庁北部	233	秋田県内陸南部
136	宗谷支庁南部	240	山形県庄内地方
140	網走支庁網走地方	241	山形県最上地方
141	網走支庁北見地方	242	山形県村山地方
142	網走支庁紋別地方	243	山形県置賜地方
145	胆振支庁西部	250	福島県中通り地方
146	胆振支庁中東部	251	福島県浜通り地方
150	日高支庁西部	252	福島県会津地方
151	日高支庁中部	280	津軽海峡
152	日高支庁東部	281	山形県沖
155	十勝支庁北部	282	秋田県沖
156	十勝支庁中部	283	青森県西方沖
157	十勝支庁南部	284	陸奥湾
160	釧路支庁北部	285	青森県東方沖
161	釧路支庁中南部	286	岩手県沖
165	根室支庁北部	287	宮城県沖
166	根室支庁中部	288	三陸沖

震央地名コード	震央地名	震央地名コード	震央地名
289	福島県沖	473	千葉県東方沖
290	仙台湾	474	房総半島南東沖
300	茨城県北部	475	八丈島東方沖
301	茨城県南部	476	八丈島近海
310	栃木県北部	477	東京湾
311	栃木県南部	478	相模湾
320	群馬県北部	479	千葉県南方沖
321	群馬県南部	480	伊豆大島近海
330	埼玉県北部	481	伊豆半島東方沖
331	埼玉県南部	482	三宅島近海
332	埼玉県秩父地方	483	新島・神津島近海
340	千葉県北東部	484	伊豆半島南方沖
341	千葉県北西部	485	駿河湾
342	千葉県南部	486	駿河湾南方沖
350	東京都23区	487	遠州灘
351	東京都多摩東部	488	東海道沖
352	東京都多摩西部	489	三河湾
360	神奈川県東部	490	伊勢湾
361	神奈川県西部	491	熊野灘
370	新潟県上越地方	492	若狭湾
371	新潟県中越地方	493	福井県沖
372	新潟県下越地方	494	石川県西方沖
380	富山県東部	495	能登半島沖
381	富山県西部	496	新潟県沖
390	石川県能登地方	497	富山湾
391	石川県加賀地方	498	佐渡付近
400	福井県嶺北地方	500	滋賀県北部
401	福井県嶺南地方	501	滋賀県南部
410	山梨県東部	510	京都府北部
411	山梨県中西部	511	京都府南部
420	長野県北部	520	大阪府北部
421	長野県中部	521	大阪府南部
422	長野県南部	530	兵庫県北部
430	岐阜県飛騨地方	531	兵庫県南東部
431	岐阜県美濃東部	532	兵庫県南西部
432	岐阜県美濃中西部	540	奈良県地方
440	静岡県伊豆地方	550	和歌山県北部
441	静岡県東部	551	和歌山県南部
442	静岡県中部	560	鳥取県東部
443	静岡県西部	562	鳥取県中部
450	愛知県東部	563	鳥取県西部
451	愛知県西部	570	島根県東部
460	三重県北部	571	島根県西部
461	三重県中部	580	岡山県北部
462	三重県南部	581	岡山県南部
470	鹿島灘	590	広島県北部
471	茨城県沖	591	広島県南東部
472	関東東方沖	592	広島県南西部

震央地名コード	震央地名	震央地名コード	震央地名
600	徳島県北部	753	大分県西部
601	徳島県南部	760	宮崎県北部平野部地方
610	香川県東部	761	宮崎県北部山沿い地方
611	香川県西部	762	宮崎県南部平野部地方
620	愛媛県東予地方	763	宮崎県南部山沿い地方
621	愛媛県中予地方	770	鹿児島県薩摩地方
622	愛媛県南予地方	771	鹿児島県大隅地方
630	高知県東部	780	対馬近海
631	高知県中部	781	福岡県西方沖
632	高知県西部	782	長崎県沖
670	紀伊半島沖	783	五島列島近海
671	室戸岬沖	784	天草灘
672	足摺岬沖	785	有明海
673	土佐湾	786	橘湾
674	紀伊水道	787	鹿児島湾
675	大阪湾	788	鹿児島県西方沖
676	播磨灘	789	鹿児島県南西沖
677	瀬戸内海中部	790	種子島近海
678	安芸灘	791	日向灘
679	周防灘	792	種子島東方沖
680	伊予灘	793	奄美大島近海
681	豊後水道	794	奄美大島東方沖
682	山口県北西沖	850	沖縄本島近海
683	島根県沖	851	南大東島近海
684	鳥取県沖	852	沖縄本島南方沖
685	隠岐島近海	853	宮古島近海
686	兵庫県北方沖	854	石垣島近海
687	京都府沖	855	石垣島南方沖
688	淡路島付近	856	西表島付近
700	山口県北部	857	与那国島近海
701	山口県東部	900	台湾付近
702	山口県西部	901	東シナ海
710	福岡県福岡地方	902	四国沖
711	福岡県北九州地方	903	鳥島近海
712	福岡県筑豊地方	904	鳥島東方沖
713	福岡県筑後地方	905	オホーツク海南部
720	佐賀県北部	906	サハリン西方沖
721	佐賀県南部	907	日本海北部
730	長崎県北部	908	日本海中部
731	長崎県南西部	909	日本海西部
732	長崎県島原半島地方	910	日本海南西部
740	熊本県阿蘇地方	911	父島近海
741	熊本県熊本地方	912	千島列島
742	熊本県球磨地方	930	北西太平洋
743	熊本県天草芦北地方	931	フィリピン海北部
750	大分県北部	932	マリアナ諸島
751	大分県中部	933	黄海
752	大分県南部	934	朝鮮半島南部

震央地名コード	震央地名	震央地名コード	震央地名
935	朝鮮半島北部	938	シベリア南部
936	中国東北部	939	サハリン近海
937	ウラジオストク付近	965	中国東部

※地震情報で用いている震央地名コードと同一であるが、緊急地震速報では発表（利用）することのない震央地名コードが、一部含まれている。

地域名コード表 (2006年2月1日現在)

地域名コード	地域名	地域名コード	地域名
100	石狩支庁北部	220	宮城県北部
101	石狩支庁中部	221	宮城県南部
102	石狩支庁南部	230	秋田県沿岸北部
105	渡島支庁北部	231	秋田県沿岸南部
106	渡島支庁東部	232	秋田県内陸北部
107	渡島支庁西部	233	秋田県内陸南部
110	檜山支庁	240	山形県庄内
115	後志支庁北部	241	山形県最上
116	後志支庁東部	242	山形県村山
117	後志支庁西部	243	山形県置賜
119	北海道奥尻島	250	福島県中通り
120	空知支庁北部	251	福島県浜通り
121	空知支庁中部	252	福島県会津
122	空知支庁南部	300	茨城県北部
125	上川支庁北部	301	茨城県南部
126	上川支庁中部	310	栃木県北部
127	上川支庁南部	311	栃木県南部
130	留萌支庁中北部	320	群馬県北部
131	留萌支庁南部	321	群馬県南部
135	宗谷支庁北部	330	埼玉県北部
136	宗谷支庁南部	331	埼玉県南部
139	北海道利尻礼文	332	埼玉県秩父
140	網走支庁網走	340	千葉県北東部
141	網走支庁北見	341	千葉県北西部
142	網走支庁紋別	342	千葉県南部
145	胆振支庁西部	350	東京都23区
146	胆振支庁中東部	351	東京都多摩東部
150	日高支庁西部	352	東京都多摩西部
151	日高支庁中部	354	神津島
152	日高支庁東部	355	伊豆大島
155	十勝支庁北部	356	新島
156	十勝支庁中部	357	三宅島
157	十勝支庁南部	358	八丈島
160	釧路支庁北部	359	小笠原
161	釧路支庁中南部	360	神奈川県東部
165	根室支庁北部	361	神奈川県西部
166	根室支庁中部	370	新潟県上越
167	根室支庁南部	371	新潟県中越
200	青森県津軽北部	372	新潟県下越
201	青森県津軽南部	375	新潟県佐渡
202	青森県三八上北	380	富山県東部
203	青森県下北	381	富山県西部
210	岩手県沿岸北部	390	石川県能登
211	岩手県沿岸南部	391	石川県加賀
212	岩手県内陸北部	400	福井県嶺北
213	岩手県内陸南部	401	福井県嶺南

地域名コード	地域名	地域名コード	地域名
410	山梨県東部	622	愛媛県南予
411	山梨県中西部	630	高知県東部
420	長野県北部	631	高知県中部
421	長野県中部	632	高知県西部
422	長野県南部	700	山口県北部
430	岐阜県飛騨	701	山口県東部
431	岐阜県美濃東部	702	山口県西部
432	岐阜県美濃中西部	710	福岡県福岡
440	静岡県伊豆	711	福岡県北九州
441	静岡県東部	712	福岡県筑豊
442	静岡県中部	713	福岡県筑後
443	静岡県西部	720	佐賀県北部
450	愛知県東部	721	佐賀県南部
451	愛知県西部	730	長崎県北部
460	三重県北部	731	長崎県南西部
461	三重県中部	732	長崎県島原半島
462	三重県南部	735	長崎県対馬
500	滋賀県北部	736	長崎県壱岐
501	滋賀県南部	737	長崎県五島
510	京都府北部	740	熊本県阿蘇
511	京都府南部	741	熊本県熊本
520	大阪府北部	742	熊本県球磨
521	大阪府南部	743	熊本県天草芦北
530	兵庫県北部	750	大分県北部
531	兵庫県南東部	751	大分県中部
532	兵庫県南西部	752	大分県南部
535	兵庫県淡路島	753	大分県西部
540	奈良県	760	宮崎県北部平野部
550	和歌山県北部	761	宮崎県北部山沿い
551	和歌山県南部	762	宮崎県南部平野部
560	鳥取県東部	763	宮崎県南部山沿い
562	鳥取県中部	770	鹿児島県薩摩
563	鳥取県西部	771	鹿児島県大隅
570	島根県東部	774	鹿児島県十島村
571	島根県西部	775	鹿児島県甌島
575	島根県隠岐	776	鹿児島県種子島
580	岡山県北部	777	鹿児島県屋久島
581	岡山県南部	778	鹿児島県奄美北部
590	広島県北部	779	鹿児島県奄美南部
591	広島県南東部	800	沖縄県本島北部
592	広島県南西部	801	沖縄県本島中南部
600	徳島県北部	802	沖縄県久米島
601	徳島県南部	803	沖縄県大東島
610	香川県東部	804	沖縄県宮古島
611	香川県西部	805	沖縄県石垣島
620	愛媛県東予	806	沖縄県与那国島
621	愛媛県中予	807	沖縄県西表島